

## 1.9 設計堆砂量

- ・各調整池の設計堆砂量は、以下の通りとする。
- ・工事中は4か月ごとに浚渫を行う。工事後は3年ごとに浚渫を行う。
  - A調整池 工事中  $V=4,513\text{m}^3$  工事後  $V=2,079\text{m}^3$
  - B調整池 工事中  $V=1,924\text{m}^3$  工事後  $V=872\text{m}^3$
  - C調整池 工事中  $V=3,524\text{m}^3$  工事後  $V=1,822\text{m}^3$

防災調節(整)池の設計堆砂量は、以下により算出する。

$$V=N \times \sum (S_i \times A_i)$$

ここで、 $V$  : 設計堆砂量( $\text{m}^3$ )

$N$  : 設計堆砂年数(年)

$S_i$  : 土地状態ごとの土砂発生量 ( $\text{m}^3/\text{年} \cdot \text{ha}$ )

$A_i$  : 土地状態ごとの集水区域内面積( $\text{ha}$ )

設計堆砂年数は3~5年を標準とするが、定期的な排砂管理が確実にできる場合には、そのサイクルに応じた年数とすることができる。ただし、最低でも1年以上とする。

土地状態ごとの土砂発生量は以下の値を標準とする。

裸地 :  $200 \sim 400\text{m}^3/\text{年} \cdot \text{ha}$     林地 :  $1\text{m}^3/\text{年} \cdot \text{ha}$

皆伐地、草地 :  $15\text{m}^3/\text{年} \cdot \text{ha}$     道路 :  $5\text{m}^3/\text{年} \cdot \text{ha}$

出典: 流域開発に伴う防災調整池等技術基準 H27 p29

次項に各調整池の堆砂量計算表を示す。





